

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
画像検査学実習	2年次	必修	実習	1単位（45時間）	野邊 八重子 ※
授 業 概 要					
<p>日常検査として広く用いられている超音波検査について、心臓超音波検査と腹部超音波検査を中心に実習を行う。原理をふまえた適正な検査手技及び画像評価能力を修得する。学生同士で実習を行い、自身で検者と被検者を体験することにより、検査される側の心理も理解し、それに配慮した検査ができるようにする。熱画像検査は、検査環境や検査上の諸注意に配慮することと画像評価の修得を目標とする。</p>					
到 達 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・超音波の性質と測定機器の特性を踏まえ、適切な画像を得るための機器の操作ができる。</li> <li>・BモードとMモードの違い、それぞれの有用性と使い分けを修得する。</li> <li>・心臓超音波断層像（Bモード）にて、傍胸骨長軸像・傍胸骨短軸像・心尖部四腔像を、評価に適切な画像として撮影できる。</li> <li>・心臓超音波検査のエコーグラム（Mモード）を、評価に適切な画像として撮影し計測できる。</li> <li>・腹部超音波検査にて、腹部臓器と周辺血管を評価に適切な画像として描出し、評価できる。</li> <li>・熱画像検査に求められる検査室環境への配慮、適正な検査条件、手技を修得する。</li> <li>・撮影された画像について、臨床的評価を与えることができる。</li> <li>・検者と被検者の双方を体験することにより、検査時における患者への配慮をはじめ、臨床検査技師として臨むべき態度を身に付ける。医療従事者として必要なディスカッション能力を身に付ける。</li> </ul>					
実務経験のある教員					
野邊 八重子、五十嵐 康之：病院での臨床経験を踏まえ、超音波検査の意義及び実際に臨床検査技師がどのように検査を行うかを概説する。					
回	学 習 内 容				担当教員
1-7	心臓・血管超音波検査：検査手技・画像評価				竹内 法子
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Bモード法による傍胸骨長軸像、傍胸骨短軸像、心尖部四腔像の描出と撮影</li> <li>・Mモード法による各レベルのエコーグラム描出と撮影及び各種計測</li> <li>・カラードプラ法による心尖部四腔像又は心尖部二腔像の描出</li> </ul>				
8	検査結果の解析と評価				
9-15	腹部超音波検査：検査手技・画像評価				野邊 八重子 ※
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Bモード法による腹部臓器の観察</li> <li>・アーチファクトの対処</li> </ul>				
16	検査結果の解析と評価				
17-22	熱画像検査：検査手技・画像評価				五十嵐 康之 ※
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安静時四肢表面温度測定、顔面および体幹部表面温度測定</li> <li>・冷水負荷試験</li> </ul>				
23	検査結果の解析と評価				
学 習 方 法					
<p>事前に教科書及び配付資料を読んでおくと、理解が一層深まる。また、本実習は各項目の知識・技術を積み重ねて修得する必要があるため、事前説明に遅刻や実習を欠席した場合などは以降の実習の出席を認めないことがある。なお、欠席の場合は事前に科目担当者に了承を得る必要があり、無断で欠席した場合は以降の出席を認めないことがある。学生同士が被検者と検者役になって測定を行い、操作方法と結果判読法を習得する。</p>					
評 価 方 法					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習修了試験（実技を含む）70%、レポート30%とし、総合的に評価する。欠席は減点とする。</li> <li>・レポートはレポート評価基準（ガイドライン）に基づき評価する。これに満たない場合は評価しない。</li> <li>・再試験は筆記試験で評価する。但し、レポートを提出していない場合は評価しない。</li> </ul>					
先 修 科 目					
解剖生理学Ⅰ、解剖生理学Ⅱ、解剖生理学Ⅲ、解剖生理学Ⅳ、解剖生理学Ⅴ					
教科書、参考書					
<p>〔教科書〕最新臨床検査学講座 生理機能検査学 東條尚子 他 医歯薬出版株式会社  〔参考書〕  臨床検査学実習書シリーズ 生理機能検査学実習書 今井正 医歯薬出版株式会社  〔資料〕配付資料</p>					